

## 4 住民意向の把握

### 1 市民アンケートの実施

#### (1) アンケート実施概要

##### ①調査の目的

都市計画マスタープランの見直し及び、立地適正化計画の策定における基礎的データとして活用していくことを目的に、市内居住者（無作為抽出 3,000 名）に対して、アンケート調査を実施しました。

##### ②調査方法

郵送による送付及び返信用封筒の同封による回収を行いました。

#### 資料の発送

- ◇ 発送日：2018年9月20日
- ◇ 調査対象者：18歳以上の市民 3,000人
- ◇ 発送資料（別添資料参照）
  - アンケート調査票
  - 返信用封筒
  - 「(仮称)つくばみらいのまちづくりを話す会」参加募集

#### お礼と回答依頼 の発送

- ◇ 発送日：2018年10月16日
- ◇ 発送対象者：調査対象者全員

#### 調査票の回収

- ◇ 返信用封筒の同封による回収
- ◇ 回収期日（調査票記載の期日）：2018年10月19日

### ③設問

#### 1.回答者属性

- ①性別 ②年齢 ③職業 ④居住年数 ⑤土地所有の状況 ⑥居住地区

#### 2.普段の生活行動（行き先、頻度、主な交通手段）

- ①通勤・通学 ②食料品・日用品などの買物 ③衣料品や贈答品などの買物  
④友人や家族との遊び ⑤医療・福祉施設 ⑥教養・文化活動、習い事など

#### 3.地域の暮らしやすさ

- ①交通 ②生活 ③衛生・安全 ④自然環境・住環境  
⑤コミュニティ ⑥全体的な暮らしやすさ

#### 4.市全体のこれからの都市づくりについて

- ①望ましい将来の市の姿のイメージ(複数回答)  
②市の魅力を高めるために重要なこと(複数回答)  
③これからの農地のあり方  
④これからの商業地のあり方  
⑤これからの工業地のあり方  
⑥これからの住宅地のあり方  
⑦これからの自然環境や景観形成などのあり方

#### 5.地域のまちづくりについて

- ①地域をより生活しやすくするために今後必要なこと（複数回答）  
②地域の道路・交通に関して今後必要なこと  
③住まい周辺の公園・緑地に関して今後必要なこと  
④地域の開発と保全のあり方  
⑤しあわせに住み続けられると思う市の姿

---

## (2) アンケート結果概要

### ①回収率

調査期間は 2018 年 9 月 20 日から 2018 年 11 月 13 日とし、調査票の発送数 3,000 人のうち、1,251 人からの回答を得ました（回収率 41.7%）。

$$\frac{\text{調査票の回収数} \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot 1,251 \text{ 人}}{\text{調査票の発送数} \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot 3,000 \text{ 人}} \rightarrow \boxed{\text{回収率 } 41.7\%}$$

## 2 まちづくりワークショップの実施

### (1) まちづくりワークショップ実施概要

開催日時：平成 30 年 12 月 16 日（日）13:30～16:00

開催場所：谷和原庁舎 2 階 大会議室

参加者：公募による市民 26 名

### (2) 実施方法

最初にテーマ別に 5 つにテーブルを分けて、40 分程度、テーマに沿って、アイデアや意見を話して頂きました。

次に、自分の話したい・好きなテーマの座席に移動して頂き、40 分程度、テーマに沿って、アイデアや意見を話して頂きました。

最後にテーブルで意見をまとめて、発表を行いました。

#### 【テーマ】

(交通) 国道、県道などの幹線道路の利便性や道路環境、身近な道路の利便性、歩道の利用しやすさ、鉄道の利用しやすさ、バスの利用しやすさ

(生活) 身近な買い物環境の利便さ、地域の拠点における行政サービス施設の便利さ、銀行・郵便局の便利さ、病院等の医療施設の便利さ、小中学校の規模と立地状況

(衛生・安全) 上下水道などの給水施設の整備状況、下水等の排水状況、ごみ処理の方法、騒音・振動・悪臭など生活公害に関する安全性、地震や水害などの自然災害に対する安全性、交差点改良やカーブミラー設置など交通に対する安全性

(自然環境・住環境) 周辺の子どもの遊び場となる公園の充実度、緑の身近さや豊かさ、まちなみの美しさ、住まいの環境の良さ（静けさ、ゆとり、日当たりなど）、自然風景の美しさ、歴史や文化など地域の個性やお祭り

(産業) これからの農業・工業・商業、農地のあり方や農業状況、商業のあり方や身近な商業施設の活性化、就業の場や既存工業地の環境

### (3) まちづくりワークショップ実施結果

#### ①交通

##### 【主な意見】

- 渋滞している道路・橋がある。改善・対応策として、道幅や橋の幅を広げて混雑を解消してほしい。
- 道路の状態が悪い場所があるため、段差などを補修してほしい。
- TX・バスの利便性が良くないため、料金を下げる、時間やルートの変更で利便性をあげてほしい。
- 細い道路が多いので、道幅を広げたり、使いやすい形にかえてほしい。



#### ②生活

##### 【主な意見】

- 夜も静かで安全。市の位置は恵まれている。静か。
- 書店や飲食店など生活利便施設がない。
- 交通弱者・高齢者が不便と思わないような街づくりをしてほしい。  
例：（カーシェアできる施設、企業）
- みらい平の昼間人口を多くする。就業できるよう企業誘致し、働き口をつくる。
- 市の企業誘致の努力が必要。
- つくばや守谷程の施設規模までは求めている。せめて不便を感じないようにしてほしい。
- 周辺広域で連携すれば市内に必ずしも全て作る必要はない。交通インフラを整備。



### ③衛生・安全

#### 【主な意見】

(上下水道 (給水・排水))

- 上水道が民営化になったらどうなる。
- 下水道・配管の定期的な交換計画が見えないので、計画の発信、ホームページ、自治会周知 (回覧) が必要。
- 地震等により給水ができなくなった場合、井戸水が使えると良い。

(生活公害 (ごみ・騒音・振動・悪臭))

- 自治会がないのでゴミ処理の不便→自治会を作る。

(自然災害 (地震・水害))

- 水害に対する地区のタイムラインが不明。大規模地震や大規模水害が起きた時の一時避難が周知されていないかもしれない。そのため、避難状況の発信、各地区のタイムラインの説明会実施、隣の市との協力化が必要。
- 災害時の水の確保に疑問 (井戸を設けたほうがいいのかと)。水への対応が重要。
- ハザードマップに近隣のハザードマップの状況を追加, 川のダイナミックな改造をして欲しい。

(交通 (交差点・カーブミラー))

- みらい平地区は歩道が整備されているところが多い。
- 歩道や自転車道の計画的な整備を明確にして欲しい。
- 伊奈高生の利用するバス停に歩道が欲しい。
- 交差点等の手前に段差を付けてスピードの抑制をして欲しい。



#### ④自然環境・住環境

##### 【主な意見】

(つくばみらい市の魅力)

- 田園風景，きらくやま，サイクリングロード，公園で開催される朝市など。
- 間宮林蔵，きらくやま，ワープステーション江戸をアピールしてみてもどうか。
- 街路樹の多い地域，少ない地域がある。
- どんぐり公園に駐車場があったほうが良い。

(つくばみらい市の足りないところ)

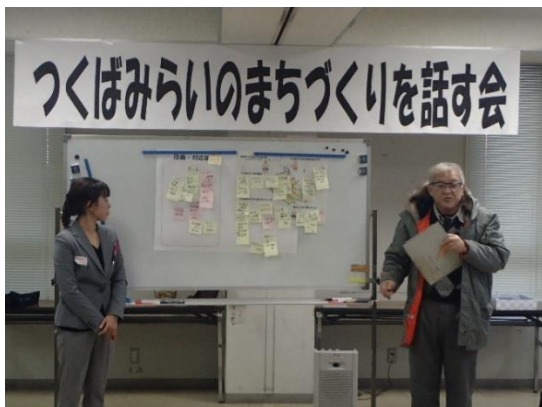
- 子どもが集まる施設として温水プール，地域の結びつき，大企業など。

(暮らしの中で困ったこと)

- 買い物するところ，交流。

(改善・対応策)

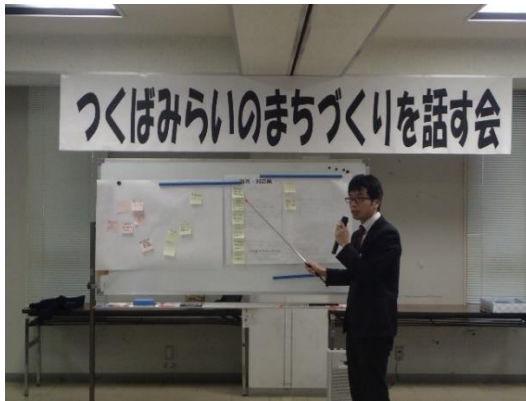
- 土日に市外に出て行かない。住民を市内に留める施策。
- 公園は人が集まるので有効活用した方が良い。  
(市民農園を公園に併設など，スポーツ，幼児，音楽フェス，学びの場，星空，防災，親子キャンプなど)
- 公園ごとに特色をもたせてイベントや利活用を考える。



## ⑤産業

### 【主な意見】

- 高齢者が働きやすい環境整備：交通手段の確保。
- 外国人等労働者を受け入れる体制を市がつくると良い：交流の場を創出，つくば市と連携し国際化を推進など。
- 他市に買い物に行ってしまう：商業施設の誘致，守谷とつくばにない商業スタイルの確立など。
- 小売店がなくなってしまった。
- 市内に仕事がない，農業で有名なものがない：官民一体，市の産業への方針をしっかりと出す，在宅勤務等の様々な労働環境や場所の確保，農業のモデルをつくり市外からの関心を引きつけるなど。
- 企業誘致の規制を緩くしてほしい。



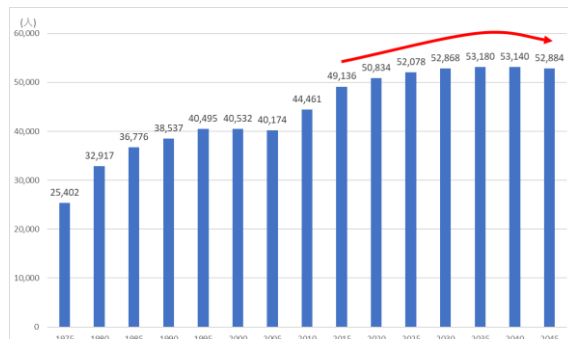


## 5 都市づくりの課題の整理

### 1 都市全体での分析結果を踏まえた課題

#### (1) 人口

本市の人口は増加傾向にありますが、2040年以降は減少に転じる見通しです。また、65歳以上の老年人口割合も増加傾向にあり、高齢化が進んでいく見通しです。



#### (2) 土地利用 ～日常生活サービスの適切な誘導～

市街地における人口密度は高水準となっているものの、市街地内で日常生活サービスの徒歩圏から外れる空白地域が見られます。そのため、人口増加が予測されている本市では、商業施設をはじめ、各種施設の進出が予想されます。

現状では、市街地を中心に適切に各種施設が配置されていますが、今後の施設の進出状況によっては無秩序な市街化が進む恐れがあります。

#### (3) 都市交通 ～多様な移動手段によるネットワークの強化～

本市と他都市を結ぶ基幹的な公共交通はサービス水準が高くなっているものの、市内を移動するバスのサービス水準が低くなっています。また、自動車の機関分担率が高く、徒歩・自転車の利用が低水準となっており、移動手段に大きな偏りが見られます。

公共交通沿線地域の人口密度は将来にわたって維持されると考えられますが、公共交通の機関分担率は低くなっており、利用促進が図られない場合はサービス水準がさらに低下する恐れがあります。

#### (4) 経済 ～サービス産業全体の活性化～

本市の従業人口密度、都市全域の小売商業床面積あたりの売上高は、人口規模が同水準の都市平均値に対して下回っており、本市の商業施設が人口に対して少ないこと、また、比較的規模の小さな商業施設に限定されていると考えられます。

今後、人口増加が見込まれる本市では、新規出店の開発圧力が高まることが予想されるため、適切な土地利用誘導が求められるとともに、地域の生活サービス機能の維持を含めたサービス産業全体の活性化への対応が求められています。

### **(5) 空き家 ～市街地荒廃化の抑制～**

空き家率は人口規模が同水準の都市平均値に対して上回っていますが、今後、人口密度が低下していく地域では、空き家が増加することが予測されます。

人口密度が低下すると予測される地域を中心に、空き家をストックとして適切に管理するとともに、適切に居住を誘導し、市街地の荒廃化を防ぐことが必要となっています。

### **(6) 安全・安心 ～安全・安心の確保～**

近年、交通事故死亡者数が多くなっている傾向にある。また、類似都市と比較して最寄り避難場所までの距離が非常に遠くなっていることから、災害時の避難行動に課題があると言えます。

公共交通のサービス水準低下による自動車への依存や、高齢化の進展により、災害・犯罪の危険性が高まる恐れがあります。

### **(7) エネルギー・低炭素 ～民生部門の省エネ・低炭素化～**

家庭部門における市民 1 人あたりの CO<sub>2</sub> 排出量、業務部門における従業者 1 人あたりの CO<sub>2</sub> 排出量ともに全国平均値を大きく上回っています。

家庭部門における CO<sub>2</sub> 排出量抑制のため、省エネルギー化を進めるとともに、公共交通への移行が求められています。

また、業務部門における CO<sub>2</sub> 排出量抑制のため、市内企業に対しても、省エネルギー化の推進を促す必要があります。

---

## 2 地域別での分析結果を踏まえた課題

地域別での分析にあたっては、前述の課題うち、3) 都市交通①多様な移動手段によるネットワークの強化、7) 安全・安心①安全・安心の確保、そして2) 土地利用①日常生活サービスの適切な誘導の3つに関わる項目について整理します。

### (1) 人口

地区別に人口の増減を見ると、小絹地区、みらい平地区では増加しているものの、既成市街地やそれ以外の地区では人口が減少しているほか、高齢化の進展が顕著になっています。

人口密度については、市街地では概ね40人/haを維持すると予測される一方で、全ての市街地で高齢者数が増加すると予測されており、公共交通の維持・強化と市街地における日常生活サービス施設の空白地域への対応が課題となります。

### (2) 都市交通

バス路線は、人口密度が20人/ha以上の地域を中心に通っており、将来にわたって人口密度が大幅に減少することはないものの、公共交通の機関分担率は低くなっています。

そのため、将来的に事業者の経営の悪化や更なるサービス水準の低下が懸念されることから、公共交通の利用促進を図るとともに、サービス水準を向上させることが課題となっています。

### (3) 都市災害

津波による浸水や、土砂災害警戒区域はあまりみられないものの、浸水想定区域は市西部の広範囲に広がっています。特に、谷井田市街地では高齢化が進展しており、今後も相当数の高齢者が浸水想定区域に該当すると予測されます。

また、浸水想定区域内に避難場所が含まれることや、最寄り避難場所までの距離が遠くなっていることから、災害時における安全性向上が課題となっています。

### (4) 都市機能

人口密度が大幅に低下する市街地は見られないことから、日常生活サービス施設の撤退の可能性は小さいと考えられます。しかしながら、高齢化の進展に伴って、市街化区域内の施設徒歩圏外の地域では、施設へのアクセスが難しくなることが懸念されます。

また、人口の増加は小絹駅周辺市街地やみらい平駅周辺市街地に限定されると考えられることから、高齢化が進む既成市街地では、高齢者の生活利便性の低下が懸念されます。

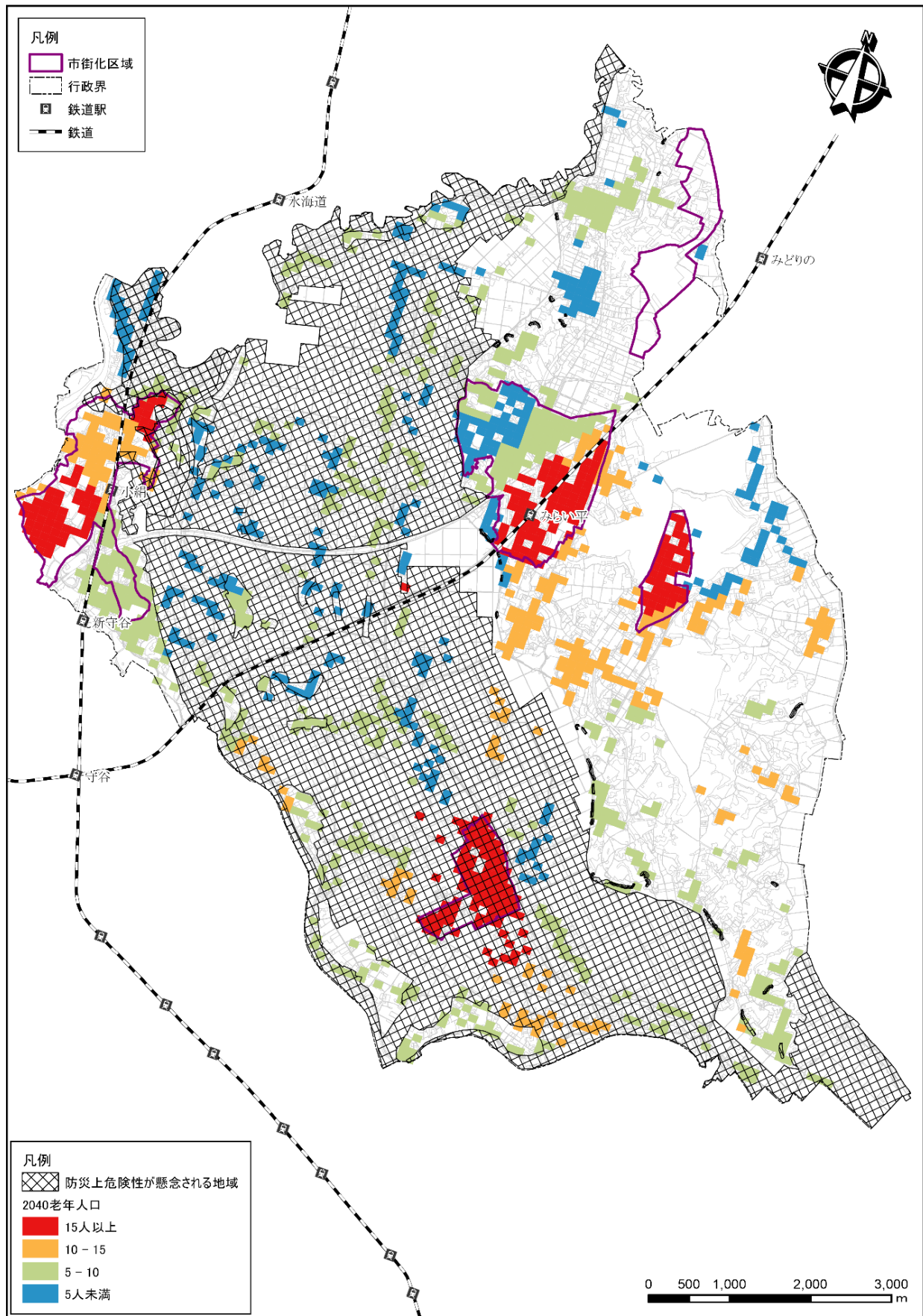


図 高齢者人口と災害危険区域の重ね合わせ（2040）